# 桜雲会だより

通算　１８７号

令和８年９月１日

社会福祉法人　桜　　雲　　会
発　行　人　　一幡　良利
東京都新宿区高田馬場４－１１－１４
藤和シティホームズ高田馬場 102
電話　　(03) 5337-7866
FAX　　(03) 6908-9526
E-Mail　ounkai@nifty.com

昨年度の事業報告書・計算書類は監事監査（6 月 2 日）を受けた後に、理事会を経て、定時評議員会(6 月 21 日)で承認されました。

会計実績では外部資金獲得、公報関連事業も比較的順調に進みました。理療科教科書は電子データ版の導入により、生徒に合った使い方を選べることに貢献できるようになりました。

事業の効率化も少しずつ進めることができたようです。年度予算・計画においても、ほぼ順調に遂行できました。

これも偏に支えてくださる皆様と職員一人一人の仕事に対する取り組みの向上によるものでした。

今後とも皆様の御支援の程よろしくお願い申し上げます。

今年の夏は、自然災害では地震、酷暑、台風、豪雨と史上最悪になりました。

7 月 28 日に令和 8 年熊本地震（震度 7）が起きました。猛暑の中での避難生活や家財道具の片付けなど、熱中症リスクも懸念されます。災害関連死を抑えることが課題となります。8 月 13 日から 14 日にかけては千葉豪雨、警報レベル 5 の大雨と土砂災害が起きました。被災された方はどうか無理をなさらずに御身を大切になさってください。少しでも早い日常の回復をお祈り申し上げます。

政府は、今年秋に防災庁を設置する方針ですが指令塔機能を負う取り組みで、特に被災地支援には素早く対応できる組織であることを祈念します。

地球環境の変動は容赦なく、襲ってきます。心穏やかではない日々が続きますが、読者の皆様方もご自愛ください。

（理事長　一幡良利）

**令和７年度事業報告**

Ⅰ　出版事業

１．新刊図書

〔点字版〕

『見えなくてもみんなで子育て　一人じゃない私たちの 30 年』

『LOVE HANDS』

〔墨字版〕

『筑波大学理療科教員養成施設　一般入学試験問題解答解説集　令和６年度版』

『愛の光を求めて　ドレーパー家の足跡』

2. 教科書の製作・販売

１）点字・触図と拡大文字、デイジー版、電子データ版（UD ブラウザ・点字）での製作・販売を行った

２）副教材の製作・販売

３．販売状況

売上総数実績 1,582 冊(年度目標 2,500 冊)

４．機関雑誌「鍼灸の世界　豊桜」

〔点字版〕毎月 25 日発行

〔墨字版〕年４回（５月、８月、11 月、２月）発行

Ⅱ　委託出版

１．各地自治体広報紙（点字版・音声版）

*順不同

東京都/埼玉県

荒川区/江東区/新宿区/豊島区/練馬区/東久留米市/日野市/文京区/町田市

内閣府/国税庁

＜参院選挙＞

岩手県・青森県を担当

２．その他の委託出版事業

日本理療科教員連盟

　模擬試験問題の製作・販売

筑波大学理療科教員養成施設

　一般入学試験問題　点字版

　推薦試験問題　点字版

　夏期講習会資料　点字版・墨字版

　『理療臨床論』　点字版・墨字版

　紀要　CD 版

附属盲学校同窓会

　会報（点字版・墨字版）作成・発送

（一財）日本児童教育振興財団

　「テルミ」点字・墨字併記　年６回

全国盲ろう者協会

　「協会だより」　点字版

日本点字委員会

　「日点委通信」　点字版

日本盲教育史研究会

　会報　点字校閲、墨字版印刷、発送

欧文印刷（株）

　レシピ本　点字版

　「ふれあいらしんばん」　点字版

NTT 印刷（株）

　信越点字電話帳　長野県版４地区

新宿区

　声の便利帳/便利帳（点字版）

NTT ファイナンス

　点字版領収証の校正

３．触読校正委託事業

駅の点字運賃表・構内案内図・トイレ案内図・ホームドアプレート・手すりプレ

ート、及び公園等の触知案内図の校正・監修

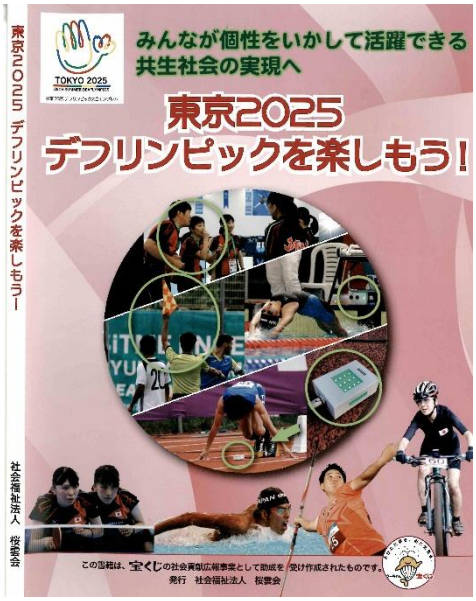
Ⅲ　研究・研修事業

1．日盲社協出版部会主催の職員研修会
2．日盲社協主催の選挙情報プロジェクト　点字表記についての研修
3．Bplot（視覚障害者が独力で点図を作成できるソフト）の研究
4．災害時における職員の安全確保や適切な対応を習得するための避難訓練及び防災研修

Ⅳ　助成事業

以下の団体から事業支援をいただきました。

1．（一財）日本児童教育振興財団
「第 19 回　宮城道雄の足跡を訪ねるバスツアー」講演・演奏会
2．（一財）　日本児童教育振興財団
「愛の光を求めてドレーパー家の足跡」伝記絵本製作・配布事業
3．（一財）日本宝くじ協会
「東京 2025 デフリンピックを楽しもう！」作成・配布事業
4．日本盲人福祉委員会
『触って楽しむ模様』講演会とワークショップ
5．（一社）昭和会館
『知られざる盲偉人　米山検校』点字図書出版・配布作業費用




日本宝くじ協会様の助成事業

Ⅴ　広報事業

1．ホームページ管理運営
2．「桜雲会だより」発行（第 186 号）
3. イベント等への出店・啓発
杉山検校祭への出店（5 月）
都盲協「折り紙ワークショップ」への講師派遣（7 月）
『触って楽しむ模様』ワークショップ（8 月）
全国盲ろう者大会へ出店（10 月）
日本盲教育史研究大会（6 ・10 月）
杉山検校遺徳顕彰会「学術講習会」への出店 2 回

## 令和７年度資金収支計算書

（自）令和７年４月　１日
（至）令和８年３月 31 日　　（円）

| 勘定科目 | | |
|---|---|---|
| 事業活動による収支 | 事業活動収入計(1) | 104,539,414 |
| | 図書出版収入 | 21,894,002 |
| | 委託出版収入 | 63,492,999 |
| | 物品販売収入 | 46,180 |
| | 補助金事業収入 | 17,462,000 |
| | 寄附金収入 | 730,000 |
| | その他の収入 | 914,233 |
| | 事業活動支出計(2) | 99,054,300 |
| | 人件費支出 | 52,245,804 |
| | 事業費支出 | 23,975,828 |
| | 事務費支出 | 22,818,268 |
| | その他の支出 | 14,400 |
| | 収支差額(3) | 5,485,114 |
| 設備収支 | 収入計(4) | 0 |
| | 支出計(5) | 2,402,327 |
| | 収支差額(6) | ▲2,402,327 |
| その他収支 | 収入計(7) | 0 |
| | 支出計(8) | 0 |
| | 収支差額(9) | 0 |
| 当期資金収支差額合計 (10)=(3)+(6)+(9) | | 3,082,787 |
| 前期末支払資金残高 (11) | | 60,819,701 |
| 当期末支払資金残高 (12)=(10)+(11) | | 63,902,488 |

## 貸借対照表

令和８年３月 31 日現在　　（円）

| 資産の部 | |
|---|---|
| 流動資産(A) | 66,938,676 |
| 現金預金 | 57,218,005 |
| 事業未収金 | 7,560,963 |
| 商品・製品 | 2,058,696 |
| 原材料 | 101,012 |
| 固定資産(B) | 14,974,557 |
| 基本財産 | 1,000,000 |
| 機械・装置 | 10,056,063 |
| 器具・備品 | 1,811,403 |
| その他の固定資産 | 2,107,091 |
| 資産の部合計=(A)+(B) | 81,913,233 |
| 負債の部 | |
| 流動負債 | 1,626,480 |
| 事業未払金 | 468,386 |
| 預り金 | 408,094 |
| 賞与引当金 | 750,000 |
| 固定負債 | 595,200 |
| 退職給付引当金 | 595,200 |
| 負債の部合計(C) | 2,221,680 |
| 純資産の部 | |
| 基本金 | 1,000,000 |
| 国庫補助金等特別積立金 | 115,635 |
| その他の積立金 | 0 |
| 次期繰越活動増減差額 | 78,575,918 |
| (内当期活動増減差額) | 2,501,489 |
| 純資産の部合計(D) | 79,691,553 |
| 負債及び純資産の部合計=(C)+(D) | 81,913,233 |

**〇桜雲会様の活動に参加して**

**一般社団法人　昭和会館　理事**

**島津泰治**

私達は昭和会館に属する男性２名、女性７名のグループです。桜雲会様とグループがボランティア活動による交流を開始したのは 2023 年 5 月 25 日です。それまでも昭和会館内にある写本部会で書籍の Word 入力の支援などを手掛けさせて頂いておりましたが、この日から９人のメンバーの本格的な活動が始まりました。

最初は代読を月１回行うといった内容でしたから活動量から言えばさほど多くはありません。代読の中味は業務に係るものから私的なものまで幅広く手掛けさせて頂きました。回を重ねるにつれて桜雲会の皆様との相互の人間関係ができあがっていきました。

私共も毎年 3、4 月頃にメンバーが集まり、1 年間の活動を振り返って次年度どのように進めていくのか意見交換を行っています。1 年目が終了した時点では代読のレベルを高めるためにはどのような事を心がけたら良いのかなどが話の中心でした。

2 年目に入って活動に参加しているメンバーが桜雲会殿主催の講演会(「移動の自由を支援」出版記念講演会、楽善会訓盲唖院ものがたり）や、バスツアー（塙保己一とヘレンケラー見学会）に参加するなど活動の幅も広がり、桜雲会様からも「自治体の冊子の校正作業に協力願えないか検討いただきたい。」とのご要請を頂くまでになりました。これを受け意見交換会で検討し、2025 年度より今までの代読に加えて、新たな形の活動を始めるために桜雲会様と打合せを行いました。「代読だけではなく『よろず様々なこと』をお願いするがご了解頂きたい。」とのお話も頂き、基本的には桜雲会様のボランティア参加要請がある日に空いているメンバーが活動するといった方式で 2025 年 5 月から開始しました。これによりそれまでの代読中心の活動から幅広くお手伝いをする形となりました。

当初は広報紙の校正補助・検品・梱包支援、封筒袋詰めなど作業や事務支援などを行っていましたが、2025 年 7 月に開催された『折り紙ワークショップ』のお手伝いをさせて頂いた頃から会の運営に関わる活動に準備段階から参画させて頂くようになり、8 月の『触って楽しむ模様のワークショップ』では 4 人のメンバーが参加し視覚障害の方々と一緒に新たな体験を致しました。

メンバーからは、『折り紙ワークショップ』では「今日の活動はイベントの進行方法、自己紹介、折紙の折り方などをそれぞれが確認し基本を把握することの徹底、及び山折り、谷折り、方向、指のアイロンがけ等のリハーサルでした。主催者としてワークショップを実行される皆様の良いアイデアが出たと思います。」「これまで特に個人的にお話ししたこと

がなかった職員の方とイベントの準備と当日の２度にわたってご一緒することになりました。自分がしっかりと役割を果たせるのか、足手まといになるのではないか、との不安もありましたが終わってみれば楽しかったのひと言です。参加させていただけて良かったです。」との感想が寄せられ、『触って楽しむ模様のワークショップ』では「トリビアクイズなど凄く盛り上がりました。あんな、こんなで 2 時間半が経過、盛況裏に会は終了しました。視覚障害者の方々の模様に触れる喜びを肌で感じました。」「あれだけの盛りだくさんな濃い内容を計画なさった桜雲会の皆様の熱意と企画力には感服致します。参加者の皆さまだけでなく、私自身も楽しませていただきました。」などの前向きな意見が寄せられました。

11 月には宮城道雄スペシャルイベントにも参加させて頂きました。これらの活動に参加させて頂く中で、視覚障害者の方々の誘導方法を正しく知らないまま活動を行っている不安も参加者の中から出て参りました。

2026 年 3 月に開催したボランティア参加者の意見交換会の中では国際盲ろうの記念イベント、ドレーパーに関するイベントの開催が決定していることから「イベントには準備段階から参加したい。」「視覚障害者対応講習会実施についてはぜひ実施して欲しい。桜雲会の方が講師だと質問しやすい。」などの声が出されました。これらの事情を桜雲会様にお伝えした処、職員の方が講師となり視覚障害者の誘導講習を 3 回にわたり開催頂き、高田馬場駅周辺を実際に歩き、エレベータの利用や自動販売機の利用方法を実践的にご指導いただくことができました。また両イベントには下見段階から参加し、意見を述べさせて頂く機会を与えて頂くなど様々なご配慮をお受けし有難く感じています。

7 月 25 日に実施された国際盲ろうの日記念イベントには 5 名が参加し、当日は館外誘導、館内誘導、受付などのお手伝いを致しました。どの程度お役に立ったのか心もとないのですが、指点字、触手話、音声、手書き文字などを実際に体験する機会も与えて頂き、参加者にとってはまたとない貴重な機会でした。「ボランティア活動に参加させていただき、これまで全く知らなかった世界を垣間見ることが出来ております。ボランティア参加の方がもっと増えるとよろしいですね。」などの感想が挙がってきました。

これからも校正補助、事務処理支援、作業支援、代読など日々の活動を通じて桜雲会の皆様との意思疎通を深め、関係をより強固にしたいと考えております。

11 月にはドレーパーの足跡をたどるバスツアーがありますが、できる限りのご協力をしたいと思っております。引き続きご指導ご鞭撻をお願いできればと思います。

## ○令和７年度日盲社協出版部会職員研修会に参加して

点字出版部　編集課主任　森田佳那子

１　はじめに

2025 年 12 月 4 日～ 5 日、神戸で行われた研修会に参加してまいりました。全国から 18 施設 45 名ほどの方が参加されていました。その際の内容について、ご報告いたします。

２　内容

【テーマ１】　点字出版物製作基準を紐解く

講演者：日本ライトハウス　福井哲也

概要：最新が 2008 年発行と約 20 年経過しており、改訂をする動きが出てきているため、過去に発行されたものから歴史と変遷を紐解き、課題等をまとめる。

初版は 1985 年の点字出版物編集基準。この時には点字のサイズの表記はなかった。現状 JIS 規格としては、駅などの点字サインや UV 印刷のサイズ規定はあるが、紙に印刷した点字については特にない。

紙のサイズについては、「B5 を標準とする」と記載されているが、盲学校教科書の図版などで A4 版を望む声も多くある。

分冊・合本について、具体的な数字では規定できず、政府関連などを中心に巻数指定があるために 350 ページを 1 冊にまとめなければならない例もある。改訂の際は、施設ごとの考えも守りつつ、利用者の使いやすさも考慮した設定を検討する必要がある。

印刷については、製版を基本におきつつ、プリンタ印刷についてどのように表記するか。

製本方法については、整った出版物という考え方に沿った際、どこまで簡易製本を包含するか。

まとめ：様々な検討を重ねられて作られた『製作基準』であることを改めて学ぶことができたとともに、考え方の違いや時代の変遷で検討課題も多いことを知ることができた。

【テーマ２】　左近允孝之進から連なる点字出版　これまでとこれから

講演者：点字毎日編集長　濱井良文

点字出版への志について。

1905（明治 38）年　市立神戸訓盲院を開き、「兵庫県の視覚障害教育の父」とも称される左近允孝之進。緑内障によって失明し、鍼・あん摩の勉強をする中で、同じ境遇の盲人たちに接し、教育の必要性を痛感。のちに「治療家である前に教養人でなければならぬ」という言葉を残している。

彼の人生を一言でいえば、自らの失明体験に基づく教育・点字出版の計画・実践だと言える。『盲人の教育』という本で、我々の仕事の原点となることをしたいと

伝えている。また、『盲人点字学習書』という本を著し、盲唖学校や訓盲院に入学できない人が自宅で簡単に学べるよう考えていることがわかる。

点字新聞「あけぼの」を発刊し、発刊の言葉として「点字をせっかく覚えても読めるものがない。毎週発刊して、その一躍を担いたい」と書いている。

このような志を、左近允孝之進が亡くなったのち、好本 督や奥村三策、中村京太郎や岩橋武夫、本間一夫に引き継がれていった。

まとめ：伝承されて行くものには、必ず始まりがある。この始まりを知ることで、今後伝承して行くための方法を検討する際に参考とできることがあるのではないかと考えるきっかけとなった。

【テーマ３】　点字製版機・印刷機など各種機械の手入れ等について

司会進行：日本ライトハウス　金子研一、京都ライトハウス　山本たろ

自動製版機については、中村製・小林鉄工所製ともに、お手入れ方法を中心に施設ごとに発表された。普段のお手入れは油が切れていないか確認して注入口から注入したり、打点するのに使うピンや受けを綿棒やピンセット等を使用して掃除している施設が多かった。一部の施設は動画を投影しながら説明を行っていた。

印刷機については、固くしぼった雑巾などでローラーを拭き、不要点字用紙などを通して水分を取っていたり、少し機械に詳しい方がいる施設ではひび割れたベルトの交換を施設内部で行ったという報告もあった。

後半には小林鉄工所の小林社長自らがいらっしゃり、メンテナンス方法についてや、メンテナンスに使用する油について詳しく説明があった。

まとめ：当会でできるメンテナンスを研究しながら、機械を稼働させる重要性を認識できる良い機会をいただいた。今後担当者間で共有し、機械のスムーズな稼働に努めていきたい。

【テーマ４】　情報交換

各施設の近況等が報告された。

新刊発行や新商品開発状況･紹介､近々開催予定のイベントなど、多種多様で興味をそそられるものもあった。

当会としては、直前に行ったバスツアーや、年度内発行予定の絵本の紹介を行った。

３　まとめ

今回の研修会に参加させていただき、他施設の方との交流をする中で、普段している校正以外のことにも興味の幅を広げ、様々な知識を得て行くことの大切さに改めて気づかせていただきました。今後の仕事の中で少しずつでも知識を習得していけるよう､邁進したいと思います。

**〇桜雲会が第 20 回近藤正秋賞を受賞**
**令和 7 年 11 月 22 日（土）**

近藤正秋賞とは、平成 18 年、社会福祉法人名古屋ライトハウスの創立 60 周年に際して設立された賞です。

創設者、近藤正秋を記念し、視覚障害者で地域団体活動や就労、経済、政治等の分野で活躍し、著しい功績のある方や団体が顕彰されます。

**授賞理由**

1892 年に東京盲唖学校の盲生徒同窓会として発足。1902 年に「実用解剖学」（全 8 巻）を出版して、日本最初の点字出版所となった。1952 年に社会福祉法人桜雲会となり、日本最古の医学書専門点字出版所として活動を行っている。

現在は、点字出版事業を軸に、自治体からの点字版音声版広報製作委託事業、デジタル制作事業、卒後教育支援事業、生活用具支援事業のほか、バスツアー、講演会などの社会活動も行っている。

第一線で活動を展開し、盲界をリードしてきた活動は、点字考案 200 年の今年、近藤正秋賞にふさわしく受賞決定となりました。

推薦者　長岡雄一様（日本盲人社会福祉施設協議会　理事長）

**＜掲載記事の紹介＞**

**週刊　福祉新聞**
**（第 3254 号）**
**令和 8 年 8 月 4 日発行**

**関わり合いが元気の源「国際盲ろう日」記念イベント**

昨年の国連総会でヘレン・ケラー（1880～1968）が生まれた 6 月２７日を「国際盲ろうの日」と制定されたことを記念するイベント（社会福祉法人全国盲ろう者協会、桜雲会などの共催）が 7 月 25 日、ハイブリッド形式で開催され、120 人以上が参加した。

ヘレンは幼い時に病気で視力と聴力を失ったが、家庭教師、アン・サリバンの指導で言葉を覚え、大学卒業後、世界各地を回って障害者らに勇気と希望を与えた。日本にも 3 度来ている。

第 1 部のシンポジウムには 2 人の盲ろう者が登壇。ヘレンの生家を訪ねたという福島智東京大先端科学技術研究センター特任教授（63）は「私は 18 歳で盲ろうになったが、ヘレンは 1 歳 7 カ月で盲ろうになった。ほとんどゼロの状態から言葉を覚えたヘレンは普通の感覚を超えた大変な努力家」と評した。

自身の母親が考案した指点字（盲ろう者の指を点字タイプライターのキーに見立ててたたいて伝える）のエピソードも

語り、「元気でいられるのは他の人と関わり合うことが一番。盲ろう者のコミュニケーションの特性は同じ時、同じ場にいる人とだけ話せること。それは人と人のコミュニケーションの原点だ」と話した。

森敦史筑波技術大障害者高等教育研究支援センター研究員（34）は生まれつきの盲ろうで、３歳の時から難聴幼児通園施設に通った。言葉は手話で教えてもらってから実際にそれを触る、経験するという方法で覚えた。例えば、海に行って海水や砂浜を触り、それらをまとめて海とイメージしている。「経験と結び付けることを重視して教えてくれた。今後の盲ろう児の教育に貢献したい」と話した。また「インターネットで情報を入手できるなどＩＣＴ（情報通信技術）の普及で日本語技術が大きく伸びた」と述べた。

登壇した福島氏（左から２人目）と森氏（同４人目）

第２部では盲ろう者とのコミュニケーション体験と交流が行われた。指点字を体験した女性は「自分に自信がないとたたく力が弱くなると言われた」などと助言を受けた。

**情報をどう届けるか**

厚生労働省の 2024 年度調査では盲ろう者は全国に推計 9313 人いる。福島特任教授は「身体障害者手帳に二つの障害名を記載するメリットがないため記載していない人などもおり、実際には盲ろう者は２万人程度いるのではないか」と推察する。「盲ろう者や家族にどう情報を伝えるかが大きな課題。個人情報保護などへの対応も必要だが、行政と当事者団体が協力しながら個別訪問をして、困っていることはないか調べることが有効な方法だ」と述べた。（榎戸　新）

（関わり合いが元気の源　「国際盲ろう日」記念イベント - 福祉新聞 Web）

＜寄稿＞

## 第19回バスツアー「現代邦楽の父・宮城道雄の足跡をたどる」（2025年11月29日(土)開催）に参加して

NHK　報道局　記者　　杉田　淳

今回、社会福祉法人桜雲会主催、一般財団法人日本児童教育振興財団協賛の記念バスツアー「生誕130周年　現代邦楽の父・宮城道雄の足跡をたどる」に視覚障害当事者として参加しました。朝の集合から解散まで、充実した一日を過ごすことができ、心から感謝しています。

最初に訪れた上野公園の不忍池は以前よく訪れていた場所でしたが、八橋検校顕彰碑の存在を初めて知り、邦楽の歴史の奥深さに思いを馳せることができました。

そして、谷中霊園で宮城道雄の墓に手を合わせ、邦楽界に革新をもたらした偉人の姿を身近に感じることができました。昼食は風情のある神楽坂のお店で、贅沢な懐石をいただきました。食事中も参加者同士の交流があり、和やかな雰囲気で満腹になりました。移動距離やバスの停車ポイントなどを考慮しながら、事前に下見をされていたのではないかと推測しました。

午後の会場である赤城神社では宮司さんの温かい講話がありました。ガラス張りの施設は、私の目でも何となく確認することができ、おごそかな境内とモダンな造りの調和に感心しました。

スペシャルイベントでは､講演や講談､そしてソプラノ独唱と、宮城道雄の功績を多角的に紹介するプログラムが続きました。

今や日本の正月を象徴する「春の海」が実はとても斬新な曲として受け止められていたこと、宮城氏がいかに大衆的な人気を博した著名人であったかなどの千葉優子さんの講演は恥ずかしながら知らないことが多く、好奇心が大いに刺激されましたし、新進気鋭の宝井琴人さんの講談は堂々たる出来栄えで、宮城氏の等身大の姿をありありと想像することができました。

幼いころに宮城氏に対面していたという塩谷靖子さんのソプラノは情感がこもり、海の広さ、深さ、雄大さが胸に迫りました。寺山修司が語った通り、海を見に行きたくなりました。

何より、このツアー全体を通して感じたのは、幹事の方々のきめ細かな企画力です。移動や食事、イベントの進行に至るまで、参加者一人ひとりが快適に過ごせるよう心を尽くしてくださったことが伝わってきました。

視覚障害者にとって、こうした配慮は単なるサービスではなく、安心して文化に触れられるための大切な架け橋と感じました。

また、私にとって大きな安心と楽しみを与えてくれたのは、バスで隣の席となった晴眼者の女性でした。日本点字図書館で長年勤務されていた方で、移動のサポートはもちろん、道中の会話がとても楽しく、音楽や歴史、グルメの話題で盛り上がりました。視覚情報が限られる私にとって、こうした言葉のやり取りは思い出に豊かな彩りを与えてくれました。大変ありがとうございました。できましたらまた来年、参加したいと思います。

（赤城神社内　あかぎホールにて）

**〇お知らせ**

**2026 年(第 20 回) 桜雲会バスツアー**

「ドレーパー家の足跡　―愛の光を求めて」

ドレーパー家ゆかりの地を巡りながら、移動中の講演を織り交ぜ、足跡と歴史を紐解いていきます。

＜バスツアー概要＞

開催日：2026 年 11 月 21 日(土)

定　員：40 名（定員に達し次第、募集を終了させていただきます）

参加費：6,000 円（昼食代・資料代込）

主　催：社会福祉法人 桜雲会

協　賛:一般財団法人 日本児童教育振興財団

＜当日のスケジュール＞

8:45　JR 高田馬場駅近辺のバス待機場所へ集合

9:00　出発

9:40　青山霊園到着
ドレーパー家の墓参

11:40　昼食会場・横浜中華街「四五六菜館」にてお食事

13:30　横浜訓盲院・学院到着

13:45　スペシャルイベント開演(横浜訓盲院・講堂)

13:55　講演「訓盲院の歴史」(仮)　今村鎭夫氏

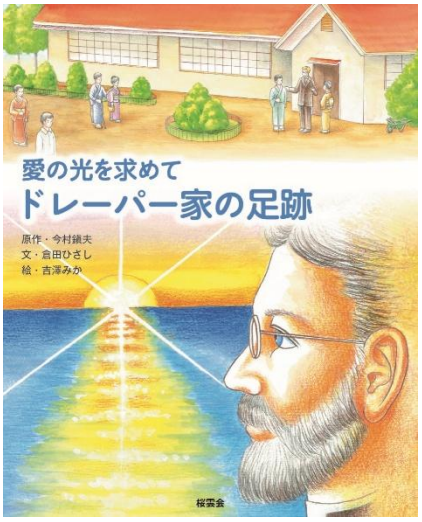
14:25　講談「闇夜に響く笛の音」(仮)　宝井琴鶴氏

15:10　バイオリン演奏・白井崇陽氏

17:30　高田馬場到着・解散

## ○絵本シリーズ　新刊のご案内

日本児童教育振興財団様の助成事業により『愛の光を求めてドレーパー家の足跡』を発行しました。




日本で唯一私立の視覚支援学校である横浜訓盲学院を創設したギデオン・ドレーパーと家族の足跡が絵本になりました！

横浜での伝道生活は困難を極めますが、一家で活動を続けます。ある日、全盲の少女と出会った一家は、彼女の厳しい生活を目の当たりにし、視覚障害者に手を差し伸べることを決意しました。一家は、関東大震災、経済的危機など幾多の困難を乗り越え、盲児教育の道を切り拓いていきます。

英訳も収録しており、英語を学習している方や日本語を母語としない方にもおすすめです。

（原作/ 今村　鎭夫　文/ 倉田ひさし　絵/ 吉澤みか）

## 編集後記

最高気温が 40℃以上の「酷暑日」は、延べ 36 地点で 10 日間ありました。今年から天気予報に加えられた用語です。危険な暑さであることを簡潔に伝えて注意喚起を強める狙いもあります。

梅雨明けと同時に太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しにより、気温の上昇が起きました。高温が増加する背景には、地球温暖化による地球全体の気温や海面水温の上昇、ヒートアイランド現象、数十年規模で起こる大気の自然変動など、様々な要因が関係しています。

熱中症にならないために自分の身は自分で守ることです。問題は「危ない」と判断できなくなることです。脳の機能が影響を受けると、まだ大丈夫と思ってしまい作業を続けることが危険なのです。早めの対処と休息が重要となります。

富士白糸の滝
少し涼を感じました

（一幡　良利）